

[ニュース原稿]

京都府知事選挙における非核平和の府民要求 「舞鶴と日本海をアジアと世界の平和の玄関口に」

3月20日告示、4月6日投開票で京都府知事選挙が行われます。「府政転換・世直し京都府民ネット」を母体として、小児科医・尾崎望氏が立候補され、このほど「尾崎望の5つの挑戦（私の重点政策）」を発表されました。その五項目のタイトルを示せば以下の通りです。

(1)「全国最悪経済」からの脱却、(2)「機会の平等」の保障—「子どもの貧困」をなくす、(3)「安心の医療・福祉」(4)「原発ゼロ」「非核京都府宣言」(5)「地域住民主権」「災害に強い京都」

これらのなかで、(1)では地域分散型の「再生エネルギー戦略」を展開すること、(4)では若狭の原発群から府民を守るため、「ただちに原発ゼロ」の決断を政府に迫ること、そして「舞鶴と日本海をアジアと世界の平和の玄関口」として位置づけ、「府として非核自治体宣言」を行い、「平和友好シンポジウム in 京都（仮称）」の開催を呼びかけています

これらの脱原発・非核平和の政策には、本会が東日本大震災後、とくに力をこめて練り上げてきた諸点が、見事に京都府レベルの重点政策として示されています。いわば本会の近年における運動目標と京都府知事選挙の争点の深い関連が浮き彫りされています。

本会定期総会

公開シンポジウム「再生可能エネルギーに取り組む人びと」の開催 「意見ポスター運動」の検討・具体化へ

4月19日（土）、本会第28回定期総会が行われます。本会は東北大震災後、「核兵器のない世界」とともに、北東アジアの平和をめざす非核地帯化（核兵器使用禁止地帯化）という見地に加えて、「原発のない日本」という課題を明確化してきました。加えて「原発のない国」の社会的現実的条件を成熟させるために、「再生可能エネルギーの推進」の運動に着手してきました。このような見地と運動は、京都府知事選挙においても府民的争点として浮上しています。本会としては、このような府民的到達点を知事選挙期間だけにとどまらず、今後の持続的な運動としていかねばならない、と考えています。

その意味で本総会において、「核兵器のない世界、北東アジアの非核化（核兵器使用禁止地帯化）、原発のない日本、京都府非核自治体宣言」といったグローバル、リージョナル、ナショナル、ローカルそれぞれの四つのメイン・スローガンとともに、再生エネルギーの推進などのサブ・スローガンを配した「意見ポスター運動」を、今秋にむけて展開することを提案する用意をしております。

なお本総会に先立って、公開シンポジウム「再生可能エネルギーに取り組む人びと——体験と課題」を開催します。これは、再生可能エネルギーの推進に実際に取り組んでいる四人の報告をもとに、どうしたらこの運動に参加できるか、また京都におけるこの運動の現状では、脱原発にむけての展望のもとでどんな問題点があるかなどについて、コーディネーターに白石克孝氏をまねいて、議論の場を設定しています。